

## 編集後記

次期編集委員長に就任するよう藤本副会長（当時）から打診があつて以来、任期中の最大のミッションを、査読体制の刷新と関連規定の整備、新たな査読体制の周知・定着に置いている。まだまだ道半ばではあるが、藤本会長を中心とした役員の方々、編集委員会の方々の多大な尽力を得て、新たな査読体制はその外形を整えることができた。日本発の学術公刊物が置かれた状況は極めて厳しいものではあるが、「親身になって研究者を育てる」という編集・査読の方針に活路を見出してゆきたい。また、本号では、「越境」をテーマに4つの論文を掲載できた。これは、渡邊前編集委員長が立ち上げられた、部会研究会を起点とした誌面充実の流れであり、現行の編集委員会でもしっかりと引き継いでいきたい。すでに複数の企画が立ち上がっており、その成果を会員の方々にお届けできるのを、今から楽しみにしている。自由投稿の査読付き論文の質量両面での向上はすぐには実現することではないが、査読付き論文と編集委員会企画論文の双方が充実して、何から掲載していいか分からないという「うれしい悲鳴」が生じる未来を想像している。

編集委員長 江夏 幾多郎